

## はじめての歎異抄講座(2)

弥陀：阿弥陀仏。阿弥陀如来。

誓願：仏が衆生を救うために、必ず成し遂げようと誓って立てた願い。本願。

不思議：思いはかることができないこと。人間の思量を超えたこと。不可思議ともいう。親鸞聖人はほかに、「仏智不思議」「名号不思議」「願力不思議」「仏法不思議」「他力不思議」「選択不思議」などと使っている。

たすけられる：さとりを得ること。ふたたび迷いの世界に帰らないこと。

往生：迷いのいのちが終わって浄土に生まれ、永遠のいのちを獲得すること。

念仏：口に南無阿弥陀仏と称えること。弥陀の名号を称えること。

攝取不捨：「攝取」は、仏の慈悲のころよによって一切の衆生を受け入れ救い給う、の意。「不捨」は、お捨てにならない、の意。

### 1. 弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて

#### 1) 阿弥陀仏の誓願

##### ①阿弥陀仏

アマタユース：無量寿。寿命無量。限りないいのち。

アマターバ：無量光。光明無量。無限の光。

無量寿仏をば、無量光仏・無辺光仏・無礙光仏・無対光仏・焰王光仏・清浄光仏・歡喜光仏・智慧光仏・不断光仏・難思光仏・無称光仏・超日月光仏と号す。 (『無量寿経』十二光)

##### ②誓願

阿弥陀如来が法蔵菩薩としての修行中に、必ず衆生を救うために立てられた四十八の願。これが実現しないときには「正覚をとらじ」と、各願ごとに誓いを立てられた。

#### 2) 不思議

いつつの不思議をとくなかに 仏法不思議にしくぞなき

仏法不思議ということは 弥陀の弘誓になづけたり (『高僧和讃』)

- ・「衆生多少不思議」「龍力不思議」「業力不思議」「禅定力不思議」「仏法不思議」
- ・仏法不思議＝不可称、不可説、不可思議

#### 3) たすけられまゐらせて

- ・私の視点 …… 自分の思い通りになること。私の願いがかなうこと。
- ・仏教の視点 …… 慈悲と智慧がそなわること。

①ありのままをありのままみることができること。受け止める力。

②とらわれ、執着から解放されるということ。

③「本願が届く」「本願成就の身となる」「本願にまかせる」

## 2. 往生をばとぐるなりと信じて

### 1) 往生

「往」：自己中心の考えから解放され、真実信心に生きること。

人間の価値観（低・浅・日常的） → 仏の価値観（高・深・超越的）

「生」：「生活」は「生」あつての「活」。「活」のみになっていないか？

仏の前で生きているか。「帰依する生」

### 2) 信じて

・三つの信（『涅槃経』より）

①「信に二種あり、一つには聞より生じ、二つには思より生ず」

②「信に二種あり、一つには信、二つには求なり」

③「また二種あり。一つには道あることを信ず、二つには得者を信ず」

・信心=まことのこころ

源空が信心も、如来よりたまわりたる信心なり。善信房の信心も如来よりたまわらせたまいたる信心なり。  
（『歎異抄』後序）

信心をまことの心とよむうえは、凡夫の迷心にはあらず、まったく仏心なり。この仏心を凡夫にさずけしめたもうた時、信心とはいわるるなり。  
（覚如上人『最要鈔』）

## 3. 念仏申さんとおもひたつところのおこるとき

- ・念仏は字の通り、仏を念ずること。真如を念ずる（実相の念仏）、仏の相好を心に思い観る「観想の念仏」、仏像を観ずる「観像の念仏」、名号を称える「称名念仏」がある。
- ・称名は阿弥陀仏の本願において選び取られた決定往生の行。
- ・念仏申さんと思ひ立つ心はが起ころのは、弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせての結果以外の何ものでもない。

## 4. すなはち攝取不捨の利益にあづけしめたまふなり

### 1) 攝取不捨の利益

**光明遍照 十方世界 念仏衆生 攝取不捨（『観無量寿経』）**

（光明遍く十方世界を照らす。念仏の衆生を攝取して捨てたまわず）

- ・利益の「利」は、利害の「利」ではない。ありのままの自分として生きることが、阿弥陀如来によって全面的に肯定されていることを自覚できたこと。

### 2) あづけしめたふ

- ・「あづく（預く）」は、他動詞。加わらせる、参加させるの意味。目的語は「私を」。
- ・「しむ」は使役の助動詞が尊敬の意味に転じたもの。
- ・「給ふ」は尊敬の助動詞。前の「しむ」と結びついて、最高の尊敬をあらわす。
- ・「なり」は、断定、各説の意味を表す助動詞。～のである、の意味。